

黒部・宇奈月温泉特集

# 新幹線開業に向け連携を

## 黒部・宇奈月の魅力と課題を語るキーマン座談会

週刊

観光 経済 新聞

宿泊・旅行業・運輸・自治体(観光全般)

第2部

# 温泉、自然、鉄道…多様にアピール



黒部峡谷鉄道 取締役社長 加藤 和彦 氏



黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事 川端 康夫 氏



黒部市長 堀内 康男 氏



宇奈月温泉旅館協同組合 理事長 中島 勝己 氏



上空から見た黒部市。急しゅんな黒部峡谷から宇奈月温泉、富山湾までを市域に持つ

宇奈月温泉や黒部峡谷トロッコ電車など、全国的に知られる観光素材を持つ、富山県黒部市。2年後に開業する北陸新幹線の駅もできる同市は今後どのように観光振興に取り組むのか、観光魅力と課題を4人のキーマンに語ってもらった。(宇奈月温泉、ホテル黒部)

### 黒部・宇奈月の現在の状況

黒部市の現況は。堀内 現黒部市は06年3月に人口3万6千人ほどの旧黒部市と、人口約6千人の旧宇奈月町が合併してできた。旧黒部市はもともと、農漁業中心の町だったが、今から10年ほど前にYKKを誘致したことなどもあって、今では工業、製造業の盛んな地となった。そのため合併以前はほとんど観光を意識してこなかった。旧宇奈月町と合併したことで観光への取り組みが当市の大きな課題となった。合併時には北陸新幹線の金沢までの開業と富山県に3つできる新幹線の1つが当市にできることが決まっていたので、それを契機に観光振興に力を入れているという現状だ。

黒部市の観光入込客数の状況はどうか。川端 宇奈月温泉への宿泊者数は1989年が最も多く20万人だった。昨年は約28万人。宿泊者数としては減少しているが、黒部市全体で見ると、産業観光やまち歩き観光などを目的とした人が増えており、宿泊の減少をカバーしている。中島 後継者の問題などで自ら廃業した旅館・ホテルなどもあり、宿泊客数の減少には、温泉地としての収容力減による減少も含まれている。

黒部峡谷トロッコ電車の状況は。加藤 黒部峡谷鉄道は、黒部の電源開発の資料輸送のため川に電源開発の資料輸送のため川にひかれた。現在も作業用車両が走っているが、基本的には本格的な観光用列車となっていない。乗降客数は1994年に片道1000人程度、現在は片道約500人程度に減少している。2007年には2度の地震などによって90万人を割った。

市、温泉の観光入込客数は減少傾向にあることだが、現在どのような取り組みを行っているか。堀内 旧黒部市では町の活性化と観光振興の観点から、自分たちの生活そのものに磨きをかけ、発信すればそれ自体が観光資源になりうるという考えの下、特に「生地」という海岸沿いの漁村の風景、生活そのものを観光資源として生かしている。2007年には2度の地震などによって90万人を割った。

### 入り込み増への取り組み

川端 宇奈月温泉は従来、団体の宴会のお客さまが多かったわけだが、今は家族や少人数グループなどの個人客が増えている。若い人が増えてきていることを感じる。黒部峡谷鉄道のボースターとしても、若い層にもアピールしたい。PRしていることも意識してPRしていることもあるだろう。若い方が来てくれることはうれしいことだ。東日本大震災などで直近の3年間は減少している。

加藤 客層は自然に変わったというよりも、われわれが仕掛けたからだと考えている。従来は緑色のいいところをトロッコ電車が走っているというだけのイメージだったのだが、近年は黒部川の美しさや川遊びの楽しさ、電車に乗ることそのもののもの。もう一つが産業観光。YKKや黒部峡谷鉄道、関西電力などの事業そのものを見ていただけるような産業観光に力を入れている。もちろん宇奈月温泉や、黒部峡谷トロッコ電車といったこれまでの観光資源を発展させたい。今年度からは黒部市と連携して、課題の洗い出しをした。

堀内 黒部市と旧宇奈月町で観光に対する考え方がかなり違っている。黒部市は観光振興に積極的に取り組むべき課題を分かっていたとしても、現場レベルではなかなか落とし込めない。6月末7月初めに、全旅館・ホテルの従業員8割が参加した研修を行った。加藤 おもてなしというものは、1人ひとりの気持ちが大変重要。黒部市として、黒部峡谷トロッコ電車、温泉と全川で発信できる観光資源を持つ国に発信できる観光資源を持っているので、それを生かして観光振興を行うというのが基本的な考えだ。

観客局には、黒部市全体のPR、情報発信、誘客活動、そして新しい旅行商品の開発という3つの大きな役割がある。会員は、旧黒部、旧宇奈月の両観光協会のメンバーからなり、120社ほどで構成している。活動の手ごたえは。川端 観光協会の時代は、それぞれの団体がそれぞれの分野やエリアについて施策を展開していたが、今は、市、観光局、黒部峡谷鉄道、宇奈月温泉旅館組合の4者でワーキンググループをつくって様々なことを展開しようという話し合いを進めている。PRなどの部分では少しずつ効果が上がってきていると思うし、今後は4者の連携を生かして誘客に結び付けていく必要がある。中島 旅館組合の取り組みは、旅館としての「目撃レポート」をしなければならぬと

楽しさをイメージさせるボースターを作るなどして様々な楽しさを訴えた。若い男性グループ、女性グループ、男女ペアなどが増えたり、夏になると子供連れの家族層が多く足を運んでくれるようになった。中島 宇奈月温泉の客層は、かつての団体志向から個人志向に変わってきている。トロッコ電車の運行時期には若年層やファミリー層が多い。考えた。宇奈月のキャパシティから考えると、欲を言えば5万人、悪くても3万人は宿泊者数をアップしなければならぬこととらえている。そこで富山大学の渡辺康洋教授に協力いただき、5万人アップのための調査と課題の洗い出しをした。今年度からは黒部市と連携して、課題の洗い出しをした。

## 越中おわら宇奈月、8月末に9月上旬には仲秋の部も

おわら期間中の温泉への宿泊で、宿泊優待券を贈呈



宇奈月温泉旅館協同組合

www.unazuki-onsen.com TEL: 0765-62-1021 ファックス: 0765-62-1025

宇奈月温泉は1992年から、「越中八尾おわら風の盆」で知られる越中おわら節を宇奈月でも楽しんでもらおうと、「越中おわら宇奈月」を実施している。今年8月31日に開催。宇奈月のおわら、祭りを見に来た人たちも、輪踊りや街流しに参加できるのが特徴だ。難しさに見えておわらのおややかな踊りも、輪踊りの前に行う練習会に参加することで踊れるようになる。実際に踊るの輪に加わって踊ることの思いも一層深いものとなる。9月10〜16日には「仲秋の部」も開催する。多くの人に越中おわら宇奈月に足を運んでもらおうと、宇奈月温泉旅館協同組合では今年、おわら期間中の宿泊者を対象に、宿泊優待券や黒部名水ポキークラブを抽選で贈るキャンペーンを企画した。併せて各旅館・ホテルでは、10室限定の特別宿泊プランを用意。よりお得に宇奈月温泉とおわらを楽しんでほしいと考えていた。

